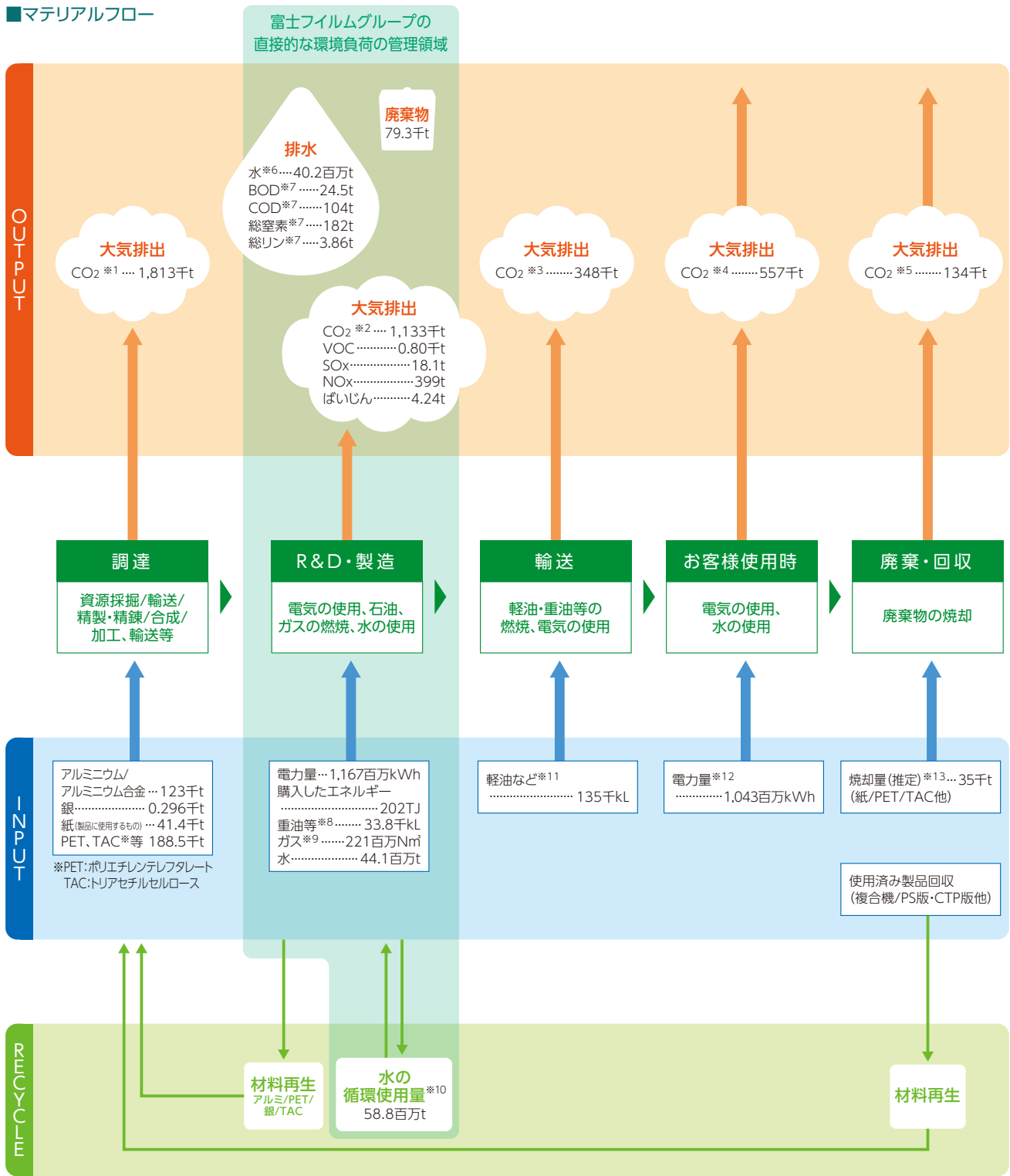


環境側面に関する情報

※ 環境パフォーマンスデータの対象組織は、原則的に連結財務諸表の範囲で、環境負荷の大きさを基準に設定しています。ただし、一部の販売及び生産(組み立て)子会社は含まれていません。特に表記のないものは、上記の集計範囲で行っています。なお、「グループ合計」の値は、それを構成する各小計の合算値と必ずしも一致していない場合があります。

■ マテリアルフロー



※1 原材料の「調達」による環境負荷(原材料の資源採掘/輸送/精製・精練/合成/加工/輸送等で発生するCO₂)は、主な調達原材料に対し計算
 ※2 製品の「製造」の環境負荷は、製造工程で用いたエネルギー(電力、石油、ガス)総量から計算
 ※3 製品の「輸送」での環境負荷は、国内外の輸送手段・移動距離を想定し、それぞれに対する標準的な単位重量・単位移動距離あたりのCO₂発生量の単価、及び、歩留まり等の補正因子を「調達」原材料の重量に掛けて計算

※4 製品の「使用」による環境負荷は、コピー・プリンター・ファクスは本年度投入機の5年間稼働消費電力として計算し、その他の製品は稼働台数等の推定値に標準的な消費電力を掛けて計算
 ※5 製品の「廃棄」による環境負荷は、調達原材料の廃棄負荷を推定して計算
 ※6 事業活動で使用した水の排出量
 ※7 公共用水へ排出した量
 ※8 A重油、C重油、灯油、軽油、ガソリンの合計(石油類をそれぞれエネルギー換算して足し合わせ、総計をA重油の量で表した)

※9 天然ガス、液化天然ガス(LNG)、都市ガス、ブタン、液化石油ガス(LPG)等の合計(ガス類をエネルギー換算して足し合わせ、総計を都市ガスの量で表した)
 ※10 冷却水の使用量を含む
 ※11 トラック輸送をメインとして算定
 ※12 電気事業連合会平均のCO₂排出係数を使用
 ※13 物質ごとに焼却比率を仮定(上記において、CO₂発生量の原単位は、産業連関表等に基いたデータベースを使用)